

五色百人一首大会 ルール

【試合要項】

1. 1対1を原則とする。^{げんそく}
2. 4人1組を原則とするが、欠員が出た場合は人数を変更することがある。また、当日の急な欠員により、グループが変更となることもある。
3. 予選グループごとに1対1の総当たり戦を行う。^{よせん} ^{そうあ}
4. 各グループの上位2名が決勝トーナメントに進出する。^{けっしょう} ^{しんしゅつ}
5. 引き分けの場合は、「決勝の1枚」を読み上げ、その札を取ったほうが勝ちとなる。
6. 「決勝の1枚」でお手つきをした場合は負けとなる。^ま
7. 同率の場合は、当該者同士が直接対戦した時の勝敗により決定する。^{どうりつ} ^{とうがいしゃどうし} ^{ちよくせつたいせん} ^{しょうはい} ^{けつてい}
8. 3人1組で同率になった場合は、取った枚数の合計により決定する。それも同数になった場合は、3人（各6枚ずつ、中央に2枚）で試合を行う。^{ごうけい}

【試合進行】

1. 選手が位置についたら、読み手の合図で挨拶をする。^{せんしゅ} ^い ^ち ^{あいず} ^{あいさつ}
2. 20枚の札は審判があらかじめ切って10枚ずつに分けておく。じゃんけんで勝った方が好きな方を選択できる。なお、10枚の札の一番上の札を見て選ぶのであり、全ての札を確認することはできない。^{しんばん} ^き ^{せんたく} ^{いちばんうえ}
3. 両者は自分の札10枚を横5枚、縦2段に置く。自分の札は自分の方に向け、お互いの札の頭をつけるようにする。横は、任意の間隔を取る。^{りょうしや} ^{よこ} ^{たて} ^{だん} ^む ^{たが} ^{あたま} ^{にんい} ^{かんかく}
4. 札の位置を覚えるために、若干の時間が与えられる。この時、自分の札や相手の札を裏返して見ることができる。ただし、札の移動は出来ない。^{おぼ} ^{じゃっかん} ^{あた} ^{うらがえ} ^{いどう}
5. 序歌を入れる。序歌は次のものとする。
ご用意よければ空札一枚 東海の 小島の磯の 白砂に 我泣き濡れて 蟹と戯る
6. 読み手は、上の句と下の句を1回ずつ読む。^{かみ} ^く ^{しも} ^く
7. 札を取るときには「はい」と言い、取った札は自分の手元に裏返しておく。（左右^{てもと} ^{さゆう}）

してい
は指定しない)

8. 次の札を読み始めたら、それ以前の札を取ることはできない。
9. 札を読んでいるときは、自分の手のひらを自分の体のどこか（普通は【ひざ】か【もも】）につけておく。手をかざしながら札を探してはいけない。
10. 試合中、場の札の枚数が減った場合も空いたスペースに札を移動させない。
11. 試合中に、取り札の裏を見ることはできない。
12. 両者の手が同時にふれたと審判が判断したときは、じゃんけんで決める。手が上下に重なった場合は、下に手があるものが札を取る。
13. 1試合につき、17枚の札を読む。

【勝敗】

1. 17枚の札を読み終えた時点で取った枚数を審判が数え、場に残った枚数と照らし合わせて数を確認する。
2. 勝敗は取った札の枚数で決まる。
3. 引き分けの場合は、そのグループだけ「決勝の1枚」を読む。ただし、この場合は勝負をつけるために行ったのであるから、取った枚数には加えない。
4. 試合が終了したら、審判の合図でお互いに挨拶をする。

【お手つき】

1. 読まれていない札に間違えてふれた場合は「お手つき」となる。
2. 自分の前の札であっても、相手の前の札であっても同じようにお手つきとなる。
3. 1枚読む間に2枚以上の札にふれることはできない。
4. 2人の間に「場」を作り、お手つきをした場合は、そこに札を重ねて置いておく。
5. お手つきをした場合には、自分の取った札の中から1枚を「場」に出さなければならない。持ち札がない時は、「1回休み」とする。
6. 「場」の札は、次札を取った人が1枚だけもらえる。
7. 試合終了後に「場」に札が置かれていることもあり得る。